

お世話になりました

進藤正雄

1973年4月に東京教育大学体育学部一般体育研究室に奉職以来、2012年3月31日までの40年間多くの先生そして事務局の方々に支えられ無事に定年退職の日を迎える事ができました事を心より感謝いたします。

本稿ではこの40年を簡単に振り返ってみたいと思います。

奉職当時一般体育研究室は大石教授を筆頭に総勢10名の教員と1名の選任事務官で構成されていました。通常は大塚のG館、水曜日の教授会の日幡ヶ谷のキャンパスで活動をしていました。

当時私はテニスを主に担当していましたが、学外の施設を利用したボウリング、ローラースケートの授業にも副担当として週に2日後楽園に通っていました。また夏は水泳・ヨット(現:館山研修所)、ゴルフ(現:石内研修所)、キャンプ(現:大源太キャニオン)、冬はスキー(岩原スキー場)(12月・2月)が実施されました。私はヨット、ゴルフ、スキーの担当となり毎年現地で指導を行いました。

スキーはもっぱら初心者班担当で4泊5日の3日目の午前には班の全員をゲレンデ最下段のリフトに乗せ無事にゲレンデを滑り下ろし、最終日までにさらにリフト1本を乗り継いで降りてくる事が目標でした。お陰様で毎回この目標はなんとかクリア出来たと記憶しています。

夏のヨットはA級ディング・スナイプ・470を使用して館山湾(鏡が浦)で行われました。当時の監督は南先生(後に鹿児島大へ)でした。なお初代監督は現琵琶湖成蹊大学長の飯田先生です。

このヨット集中がきっかけで私は教育大学か

ら筑波大学までヨット部の顧問教官・監督をお引受けし、2000年より現在まで部長として携わって来ました。

さて1973年の5月より筑波大学体育センターの組織作りのため一般体育研究室では最終的な原案を作成が連日夜遅くまで続けられました。現在の体育センターの正課体育等々の担当もこの会議で作成され、所謂青表紙等にも示されました。

その後1974年6月に講師として併任され2学期より東京教育大学と筑波大学の両校のテニスの授業を担当しました。当時は学生数も少なかったため週に1回2コマの授業のため、午前7過ぎに日暮里駅から土浦駅に、土浦駅前のバスロータリーで大学行きのバスに乗り9時半頃の到着でした。大学内の大半はまだ工事中で朝降りたバス停が午後には移動するなど、雨が降ると道が川になるなど大変な環境でした。この年の授業回数は少なかったのですが公開講座(硬式テニス)の時間数が大変多かった記憶があります。年に8回開催され時間数は208時間でした。この硬式テニスの公開講座は1988年までの14年間で延べ754時間、受講者は延べ800名を越えました。また現職教育「硬式テニス」も別途開催され5日間連続で朝から夕刻まで行われました。正課体育「テニス」と合計するとといったい何時間テニスコートにいたのでしょうか。また1977年から1984年までの僅か8年間ですが霞ヶ浦で公開講座ヨットが開催され延べ時間数は168時間、参加者は160名でした。

その後、1976年より筑波大学講師となり私もつくば市並木宿舎に引っ越して来ました。当

時は並木から荒川沖へのバスもなく東京に出るには宿舎から竹園まで車で送ってもらい、そこからバスで土浦まで、土浦駅から常磐線に乗り東京までの経路でした。

さて1976年の4月1日に筑波大学体育センター勤務となったのですが、慌てたのは正課体育の授業として「ヨット」が組み込まれていた事です。当時の大石センター長に着任のご挨拶に訪れた際、体育センターでヨットを購入してあるので霞ヶ浦で授業をする様にと言われたことでした。ヨットの授業がそれも1学期から3学期まで毎週土曜日1・2時限続きプラス各学期初め、または終わりに3日間の集中授業形式で組まれていました。急速東京教育大学のヨット部学生を補助員として毎土曜日に東京から呼び何とか授業を行いました。さらに夏にも別途ヨットの集中授業（当初は2回開講）も行いました。その後、補助員は年次経過と共に筑波大学ヨット部に置きかわり、また体育センター教官や技官（現：特任助教）の方々の応援も戴き2011年夏の集中ヨットまで大きな事故もなく終える事が出来ました。この間、茨城県ヨット連盟理事、日本セーリング協会認定の技術検定員あるいは安全委員会副委員長等の要職に指名されました。

また体育センター業務として調査研究部会および体力部会の担当となりました。当部会は現在行われている体力測定の種類目を選択から始まり、データの整理ためのプログラム作りや保健管理センターと日程調整まで担当しました。こ

の部会には30年程連続して携わっていました。お陰様で保健管理センターの職員の方々には大変お世話になり、春期健康診断日程と体力測定日程の調整は2学期の初めに行ったので両日程の重複も1度もなく順調に進める事ができました。

東京教育大学の一般体育研究室から筑波大学の体育系には大石センター長を初め計7名と保健管理センター長に1名が着任しました。

その後、定年退職で1人減り2人減り、ついに私が退職するため東京教育大学一般体育研究室から体育センター創設に関わった者はいなくなります。

現在、学期制の変更に伴うカリキュラム等の改正が大きな問題になっています。正課体育の授業は単に学生の健康等に関する事だけではなく、彼らが将来社会に巣立った際に体育・スポーツに関心を持って接していることで国全体の意識の変革が期待されます。その様な意味で体育センターの授業は今現在だけでなく将来に向けての教育を行っている訳です。あとに続く先生方には将来を明るくする事が出来る様な学生の育成をお願いしたいと思います。

余談ですが筑波大学開学記念館は開学時に私の親戚の神原秀夫氏が寄贈した建物であり、現在は色々な催し等に活用されていますが、今後も末永く利用される事を願っています。

最後になりましたが、お世話になりました先生方や事務区の皆様に心より感謝いたします。